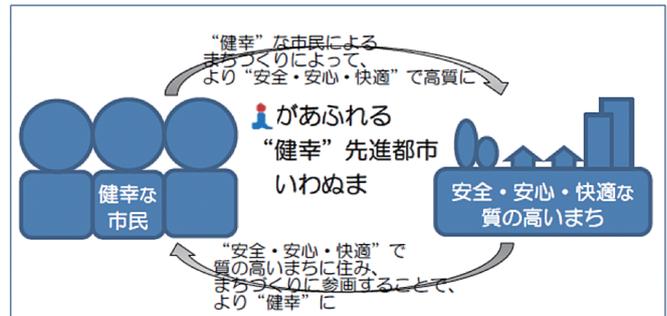


疲労測定システム

2015年4月、岩沼市は市民の健康診断の際に、併せて疲労・ストレスの度合いを測定する疲労測定システムの運用を開始した。このシステムを用いた取り組みが、市民のメンタルリスクの予防や、早期発見に役立つことが期待されている。

背景

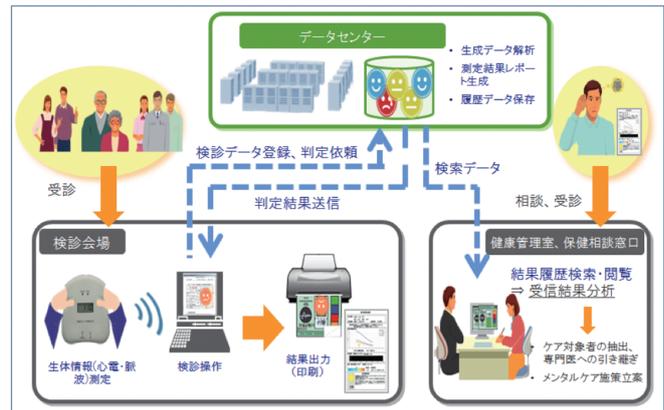
岩沼市は「健幸先進都市」をめざし、市民の健康増進・健康寿命の延伸に力を入れて来た。特に2011年の東日本大震災を契機に、被災者・高齢者を含む市民の精神的な健康面にも配慮し、人と人とのつながりを重視した健康政策を推進している。そうした中で、市民の疲労・ストレスの度合いを客観的に測定し、データに基づいた適切な対応を図る目的で、疲労測定システムが導入されることとなった。



【いわぬま未来構想】より引用

概要

- ① 疲労測定システムは、自律神経測定器*と疲労測定システムサーバから構成される。
- ② 市民の健康診断などの検診会場で、受診者が自律神経測定器に左右の人差し指を入れると2～3分で心電波と脈波が計測される。
- ③ 計測されたデータは市のサーバーに送られ、疲労科学研究所の分析機能を利用し、解析・レポート作成を行う。
- ④ レポートには、自律神経機能年齢や心拍変動、交換・副交感神経のバランス、「正常」「注意」「要注意」の3段階評価が表示されている。
- ⑤ これをもとに受診者は検診会場の保健師などと評価を行い、問題ある場合は医療機関等の検診を受けるなど必要な対応を行う。
- ⑥ 以上のような取り組みを通し、自分の疲労・ストレスに関心を持ち、保健師など専門家とのコミュニケーションを促進することで、精神的な健康の維持向上が図られる。



※疲労科学研究所が開発

アピールポイント

- 心電と脈波の計測結果を解析することにより、自律神経のパワー値および交感神経・副交感神経のバランスを算出し、客観的な精神疲労を評価。
- 市民を対象とし、疲労測定システムを利用開始（一般市民を対象とした初めての導入事例）。今後、評価～対応まで含めた運用を目指す。
- 「改正労働安全衛生法」いわゆる「ストレスチェック義務化」での活用も可能。

株式会社日立製作所 社会イノベーション事業推進本部 ソリューション・ビジネス推進本部

〒108-8250 東京都港区港南2-18-1 (JR品川イーストビル) Tel.03-5471-4599 Fax.03-5471-4624